

# 彼らは知っている…インターネット上で生きながら吊し首 になることを

パンデミック恩赦作戦：Covid 歴史の最大のペテン

SOTN

November 6, 2022



「パンデミック恩赦」はありえない、何も忘れていない、何も許せない

## プランデミック暴君たちに対するアムネスティ（恩赦）

ハザール族の指令する自暴自棄の心理作戦が  
その極端な厚かましさと類を見ない暴論によって暴かれる

完全に不条理な、傲慢きわまる侮辱が  
パンデミックの恩赦を求めている…

これほどに我々すべてを馬鹿だと期待するのは  
「嘘の父」=サタンだけであろう

しかしなぜだ？ それは本当のことか？

なぜなら、彼の奴隷の手下どもが、インターネット上で  
やがて生きてまま吊るし首になるからだ——それが理由だ!!

——キリスト教徒の Covid パンデミック研究者

## OK、聞く耳があろうとなかろうと、このような抗議が起こっている

本当に、これら母なる WEF（世界経済フォーラム）の者たちは、我々をロックダウンし、顔のおしめ（マスク）を強要し、我々が回復できないように海岸を閉ざし、仕事も学校も閉鎖し、ソーシャルディスタンスや、設置シェルターを強い、自己を孤立させ、我々の家族を隔離し、公共の場所での散歩や運動をやめさせ、あらゆるケア施設の、病人や死んでいく人や、愛する人々への訪問を禁じ、そして特に、休日や集まりや、記念日や誕生日祝いを取り消させ、結婚式や葬式、洗礼式やバルミツバーを、キャンセルさせてしまった。

次に、この同じ Covid の犯罪者たちは、彼らの COVID-19 血栓注射や、致命的な注射を流行らせるが、何の意味ある、または十分なテストも行っていない。彼らはそこで、このきわめて危険で恐ろしい注射を、この惑星上の事実上あらゆる人間に命令した。

そこで、この同じハザール・マフィアに支配された腐った階級は、我々米国のすべての人間に対し、VAERS（ワクチン有害事象報告システム）の発表する、公的な Covid “ワクチン” の死亡や傷害のデータを、完全に無視するように指令する。

そうだ、声は届いてはずなのだ。ところが、これら民族抹殺のマニアたちは、それを記録するのが役目の、重要な米政府機関に正式に報告された、無数の“ワクチン”による死亡や傷害に、我々が気づいていないかのように、振舞ってほしいと思っている。

そうだ、その通りだ。VAERS は「アメリカ健康と人間サービス省」によって運営されている。しかし我々は、そのようなデータベースが存在することさえ、忘れることが当然であるように思われている。一方で、CDC（米疾病予防管理センター）の Covid ペテンは、新しい Covid 注射を命令し、我々の子どもたちのために——つまり、彼らがまだ学校へ行きたくていれば——必要だと言っている。

VAERS のウェブサイトがここにある：<https://vaers.hhs.gov/>.

しかしそれは最悪の事態ですらない。

実を言えば、VAERS に報告されているワクチン傷害は、Covid 注射によって直接起こった、現実の死亡と傷害者数の、1%から10%でしかない。

これをご覧いただきたい：

High-Level Summary	COVID19 vaccines (Dec'2020 – present)	All other vaccines 1990-present	US Data Only COVID19 vaccines (Dec'2020 – present)	US Data Only All other vaccines 1990-present
Number of Adverse Reactions	1,453,323	905,425	891,607	786,941
Number of Life-Threatening Events	34,731	14,760	13,416	10,088
Number of Hospitalizations	182,296	85,824	71,003	39,804
Number of Deaths	31,818*	9,971*	15,003	5,442
# of Permanent Disabilities after vaccination	59,614	21,492	15,287	13,278
Number of Office Visits	210,970	54,657	174,274	52,142
# of Emergency Room/Department Visits	137,950	214,922	105,306	205,130
# of Birth Defects after vaccination	1,177	205	557	111

\*Note that the total number of deaths associated with the COVID-19 vaccines is more than TRIPLE the number of deaths associated with all other vaccines combined since the year 1990.

上の表に示されている**鍵的ナンバー**は、15,003 という**死亡者数**で、これはアメリカだけで、2020年12月以降に起こった、きわめて危険で恐ろしい、Covid注射によるものである。

しかし、忘れてならないのは、現実の死亡者数は150,030か、あるいは1,500,300にさえなる可能性があることで、それは、そのそれぞれが、1から10%しか報告されていないからである。

この表で**2番目の重要データ**は、15,287 ——Covid-19による「ワクチン接種後の永久的心身障害（廃疾）に関するもの」である。

ここでもやはり、実際の数字は高くなり、152,870の**永久心身障害**、あるいは1,528,700にさえなる可能性がある。

**3番目のデータポイント**は、891,607で、これはアメリカにおける「有害反応の数」である。

これも、その統計は、8,916,070件の**有害反応**に達するかもしれず、それよりもっと高いかもしれない。

最後に指摘したいのは、報告された「急患室/特別室の訪問について」、CV19ワクチンに関して搬入された患者が、150,306だということである。

このことは、1,503,060 もの人々が、彼らの Covid ワクチンかブースターの結果によって、アメリカ全土から急患室に運ばれたこと、もしかしたら、更にその 10 倍もの**急患室/特別室**が、2020 年 12 月以来、使われたことを意味するだろう。

### ***The Atlantic* 掲載論文**

キーポイント：下にリンクを示した *The Atlantic* の記事は、この長い論文をよく理解するためには、その全体を読むべきである。著者の繰り返す欺瞞に満ちた主張の趣旨は、次々に様子が変わってうまくいかなかったパンデミックは、意図的なものではなかったということである。言い換えると、著者 Emily Oster の言いたいのは、Covid の犯罪的陰謀の巨大なネットワークによる、大規模犯罪には、「犯意」はなかったということである。あたかも、1918 年の「スペイン風邪」パンデミックに、世界が、同じように戻ることはなかった、と言っているようだ。彼女の極端に不誠実な、この意図的な人口削減構想の解釈は、ハザール・マフィアと契約した売春新聞が、国を深くミスリードするために、大量の現金を支払われた事実としか、理解できない。この観点からみれば、オスターは、Covid 犯罪の隠蔽をよく知った上で、共謀に加担したのである。

IDEAS

## LET'S DECLARE A PANDEMIC AMNESTY

Let's focus on the future, and fix the problems we still need to solve.

By Emily Oster



Kacie Martin / The Atlantic; Paolo Veronese; Getty

<https://www.theatlantic.com/ideas/archive/2022/10/covid-response-forgiveness/671879/>

パンデミック恩赦を宣言しよう

未来に焦点を定めよう、そして我々が常に解決すべき問題を解決しよう

Emily Oster 著

「(諸々の) 嘘の父」

そこで、「(諸々の) 嘘の父」(=サタン) は、あらゆる死亡した、または障害を負ったアメリカ人たちに対し、ハザールの彼の手下どもが、いまだにこの国を揺るがせ、これほどの大きな殺人の波を作り出したことを、単に忘れてほしいと言っているのである。

現在、世界を支配しているサタンは、ちょっとしたハザールの経済学教授に、*The Atlantic* というハザールの経営する刊行物を用いて、進歩派を気取る (Woke) 下らぬ論文を書かせ、破廉恥にも、我々すべてが集団的に、Covid (コロナ) パンデミックへの恩赦を、自ら行うべきだと言っているのである。

忘れてならないのは、著者のエミリー・オスターが、このような本末転倒の、犯罪的なプロパガンダの著作を書いている間にも、Covid ワクチンのジェノサイド計画は更に進められていることである。

分かってほしいが、ハザール一族は、人類の残りの者たちが死ぬか、永遠の廃疾者になりつつある間も、常に、自らの保身に務めているのだ。

ところで、エミリー・オスターと、その夫、ジェシー・シャピーロに注目すると、いかに、この経済学者のハザール家族が、このクズのような論文を書くことを、全く厭わなかったことがわかる。間違いなく、彼らはともに、自分たちの名声を——永遠に——地に落とすことと引き換えに、彼らのアシュケナージ (系ユダヤ人) 銀行屋によって、たっぷり報酬を支払われている。すべてのハザール家族の背後には、常に報酬が付きまどっている。

したがって、理解すべき重要なことは、頂点にいるハザール陰謀団のトップでさえ、自分たちの「嘘の父」によって命令されるまでは、右にも左にも動かないことである。プーチン大統領でさえ、最近、非常に適切にも、シオニスト・アングロ・アメリカン枢軸を「嘘の帝国」と名付けたが、そこにこめられた意味は、サタン自身に他ならなかった。アメリカ合衆国は、多くの何十年も抑圧された民族たちによって、The Great Satan と名付けられたのではなかったか？ それを考えてみるがよい。

これこそ、イエス・キリストによって、「サタンのユダヤ教団 (シナゴグ)」と呼ばれ、まさに今日まで衰えず何千年も続き、「荒廃の忌まわしさ」と非難されてきたものである。

## 結論

これに直面しよう。「嘘の父」は、もし彼が世界的な暴政を維持するつもりなら、世界史上最大の黒魔術を、やり通さなければならない。そして、自分の Covid 狂信者に託して、巨大な山をなす嘘に、更なる嘘の山を築かねばならない。

明かに、彼、サタン自身だけが、地球的 Covid 生物兵器を大衆の目から隠して、ここまで効果的に事を運び、一方、惑星全体に、致命的に兵器化された、COVID-19 ワクチン接種計画を、うまく隠しおおせたのだ。

しかし、この老いたる悪魔は、彼の Covid 計略と隠ぺいが、リアルタイムで吹っ飛びつつあることを知っている——今がその時だ！ そして、傷つき、塗炭の苦しみを負う大衆が、松明を灯し、熊手を掴んで立ち上がるのは、時間の問題である。

要するに——すべての政府暴君と、犯罪者集団に免疫を与える、「パンデミック恩赦」の実行のアイデアを、少しでも匂わせようとするのは、明かに、切羽詰まった最後のあがきである。そしてそれは良いことだ。なぜならそれは、サタンが、彼自身の生き残りの祭壇において、彼の多くの Covid 犯罪者や腐敗階級たちを、今、進んで犠牲にしようとしてことが、明かになったからだ。

サタンは「嘘の父」だとは言え、彼は、ウソをつき通して、明かに人類史上最大の虚偽としての人類抹殺キャンペーンを、やり通すことは、もはやできないことを知っているようだ。結局、あらゆる人々が、Covid 超アジェンダによって、キリスト教国家群を破壊し、その国民を根絶やしにするという、彼の試みに、今やっと気づくようになったのである。彼はどうやってそれを実行するのか？「目には目を、歯には歯を」という方法以外にないと思われる。

このことは、いたるところで、キリスト教徒の愛国者たちが立ち上がり、今度こそはサタンを捕らえるだろうということを意味する——彼が何か、非常に大胆で過激なことをしない限りは。サタンは前回には、イエスをたぶらかしたように思ったかもしれない。しかし今度は、彼が、自分に忠実なウソつきの群れと、献身的な欺瞞者の軍隊を、犠牲にしないかぎり、彼はもう終わりである——否定する人がいるだろうか？

現実的に、サタンの率いる者たち全体の、現在の様相は、恐怖に取りつかれた混乱と自暴自棄でしかない。ひとたび、ウソつきの頭、トニー “恐怖販売者”ファウチが辞職すれば、彼の運命が終わることを、あらゆる人が知っていた。そしてその通りになった。

ひとたび、“ミスター人口削減”ビル・ゲイツが、船を乗り換えて、軍艦「気候変化」号に移ったとき、すべてのレベルの Covid 犯罪者は、Covid「タイタニック号」が、歴史の闇の深海にほとんど沈んだことを知っていた。

かつて無敵だった CDC と FDA、NIH と HHS も、各政府の組織的ジェノサイド機関が、永遠に暴露されると、無傷では済まされなくなった。実は、悪魔の命令で残っているのは、現大統領というベテレン師・欺瞞長官の、ジョー・バイデンだけである。

実際、常に厚かましく、極端に危険なハザール陰謀団にとって、終わりは近い。ハザール・マフィアは、人類史上、最大のやり過ぎを犯してしまったように思われる。そして彼らの多くは、最終的に、この上ない大罪の代価を支払うだろう。

ハザールの狂気の犯行者たちは、彼らの致命的な CV19 ワクチン生物兵器が、日毎に、売れなくなっている間にも、アメリカ国家に対する現行のジェノサイドを、「忘れ、かつ許す」ことを、アメリカに要求している。これほどの厚かましさを極みを、我々は知らない。犯罪的に気の狂ったサイコパスの、癒しようのない陰謀団だけが、このように狂った、最高度の ELE（絶滅レベルの事件）に相当する、地球的な犯罪騒ぎをやったのけようと試みるだろう。

——以上

#### [訳者 Greatchain 注]

この理路整然として、かつ怒りに満ちた、SOTN からの論説を、日本政府とその厚労省関係者、それに彼らを応援する主流メディアの皆さんに、読んでいただきたい。しかし日本の責任者と言うべき、このような人々の多くは、これを読もうとはしないだろう。今、我々の内部で、心が真っ二つに割れているからである。たとえば、ここで論者が「サタン」という言葉を多用しているが、これによって最初から、これを読み物の選択からはずす人がいるだろう。しかし逆に、これを論者の感覚の正しさの指標と考える人もいるだろう。

今、米中間選挙の最中だが、それを含め、この日本で行われていること、報道されていることの中で、信頼できることはほとんど何もないことを、良識ある人々は知っているはずである。現在、理性そのものが共通のものとして存在するかどうか、疑われている。私は、人間の理性や良心を信ずる人々、その危機を感じている人々に、この論説を読んでいただきたいと思う。

なお、「ハザール・マフィア」と言われる人々については、特に、そのロシア人との因縁について、私の訳したものの数篇があるので、参照していただきたい：

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/210210.pdf>